

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile 農業の未来へ向かって ~新たな力~

町新規就農支援事業

◆有限会社 西垣園芸

弊社は岐阜県川辺町に本社を構え、今年で30年目の花苗生産の会社です。真夏の最高気温の代表として挙げられる多治見から車で30分の近い場所であることから、夏の暑さはとても過酷で、夏場の生産については多くの問題を抱えていました。特に秋の早出し生産や苗の品質向上には、高冷地での生産は必須でした。そのかねてからの願いを実現させたのが、西垣園芸富士見農場です。

実際に富士見町で生産される苗は、岐阜県のものとは明らかに植物の仕上がりが違い、花の色も鮮明で、株もしっかり出来ています。どんなに頑張ってみてもこの植物の仕上がりは真似できないと感じています。

岐阜県と富士見町のリレー生産ということで、トラック便が何往復もして生産に出荷にと対応していますが、コストがかかり過ぎるため、今後は経営計画を練り直し、富士見農場単独で利益を生める流れを考えていく予定です。

自社のみならず、近隣の生産者とも連携し、地域の皆様の助力と見守りにより、今日も富士見農場を運営させていただける事に感謝し、よりよい経営が出来るよう努力して参りたいと思います。



Stay Smile いざその時 ~災害から身を守る~

総務課 防災危機管理係 ☎62-9325

近年、日本各地で災害が頻発しています。私たちの身の回りでもいつ大地震が発生するかわかりません。いざその時、自分や大切な人の身を守るためには心構えや準備が必要です。今月からこのコーナーでは、災害から身を守るための役立つ情報をお伝えしていきます。

「地震に備える」 長野県では、地震被害想定調査を平成25年・26年の2か年かけて実施し、平成27年3月にその結果を発表しました。その被害想定によると糸魚川静岡構造線断層帯の地震が発生した場合、富士見町の一部では震度7の揺れが発生すると予想されています。

大きな地震から身を守るため、一人一人が正確な知識を持つことが重要です。まずは、命を守ることを第一に考え、地震に備えましょう。

今回は地震から身を守る方法をそれぞれの状況ごとにご紹介します。

屋内



【家や建物の中】

- 家具の転倒や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。
- あわてて外に飛び出さない。
- 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない。
- 扉を開けて避難路を確保する。

屋外



【山やがけ付近にいるとき】

- 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる。

【住宅街】

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる。
- ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる。

乗り物の中



【自動車運転中】

- 自動車運転中は、地震に気づいてもあわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす。
- ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する。また、車から離れるときは、窓を閉め、キーをつけたままで、ドアロックはしない。

【鉄道やバスに乗っているとき】

- 座っている場合は、前の座席の背もたれをつかむ。立っている場合は、つり革や肘掛をしっかり握る。

Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です！

地域おこし協力隊の仲間が増えました！今月は新協力隊員の自己紹介です。

地域おこし協力隊の高橋知子です。昨年の11月に富士見町へ移住をしました。

役場産業課の商工観光係で活動しています。私の職業はカメラマン（写真・動画）です。

観光の素材をたくさん撮影し、企画・制作をして観光PRの力になればと思います。不得意なことでも頑張る年齢でもなく、業界で20年活動してきた経験と知識を富士見町に役立てることがまるだと思っています。冬から春への芽吹きを楽しみに、グリーンシーズンに向けてガイドツアーも始まります。私も一緒に歩きながら、町を知り、よりよいツアーになっていくよう、新しい目線で見えて感じていきたいな～。都内での環境・生活が分かるだけに自然に溢れている富士見町の良さは、町民の方達は当たり前すぎて素晴らしいことに気がつかないのではないのでしょうか。東京は便利で最先端、情報に富んでいて、刺激だらけで、物や人に溢れすぎている。ビジネスをするには、適していると思います。時代が進化しすぎて、生きている人間の

方がなんとなくしんどい環境となってしまったように私は感じていました。人間本来の力、生きる時間の流れなどをリセットしていく、気が付く時期になってきたように感じます。陽が昇って、陽が落ちる。木々の色の移り変わりだけに例えても、自然は偉大で厳しさと優しさを教えてくれます。私は、自然に身をおいた生活が心地いいです。



Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

自分の成長を実感する

1月、野外保育森のいえ“ぼっち”の年長組の子どもたちは卒園に向けて記念制作を始めます。自分で選んだ生地自由に描いた図案を刺し子刺繍のように縫い、卒園証書のオリジナル台紙カバーを作ります。子どもたちは「チクチク」と呼んでいます。この時期になると、テーブルの上には毎日「チクチク」セットが置かれ、年長組の子どもたちはやりたいときに少しずつ縫い進めます。代々年長組がやってきているのを見てきているので、はじめは「いよいよ自分たちもチクチクをするんだ」とワクワクして始める作業ですが、やってみるとそう簡単には終わりません。遊びたい気持ちが勝って、明日やる、と先へ先へと延ばす子、なかなかうまくできなくてもコツコツと進める子、チクチクがたのしくてハマってしまって遊びもそこそこに没頭する子、自分の描いた図案が複雑過ぎて途中で休んでしまう子、いろいろです。どんなペースで進めようと、卒園式に間に合わず、ということは決まっています。自分の頭で考え自分の気持ちと向き合いいろんなことを感じながら、毎年全員が決まった日までに完成させます。台紙カバーに針と糸で絵を描く、ということは保育士が設定したことです。しかし、生地や糸は何色で、どんな絵にするのか、いつやるのか、は子ども一人ひとりに委ねられています。また、卒業制作も大切にしながら、お友達と遊んだり自然に触れたり感じたりすることも大切にできるよう、大人が少し子どもの意志に任せることで、子どもたちの巣立ちまでの一日一日が、かけがえのない自分の成長を実感する時間になります。

4月、子どもたちは新しい生活を始めます。それぞれに一つ大きくなった実感をもって、子どもが子どもらしく希望に支えられた生活が送れるよう応援したいと思います。

